

2022 年度
学校関係者評価報告書

日本プリンティングアカデミー
学校関係者評価委員会

■ 2022 年度学校関係者評価について

日本プリンティングアカデミーは、「印刷関連産業に的を定めた専門教育・研究機関」「次世代を担う経営・営業・技術者育成のための専門教育・研究機関」として 1978 年 4 月に開校された印刷関連企業の成長を支援する唯一の学校法人・専門学校です。印刷関連業界に支えられ、創立 43 年目。国内・海外を含めて、関連業界に約 1000 名以上の人財を排出し、約 700 名の卒業生が現役として活躍しています。

平成 19 年度に学校教育法施行規則が改正となり、専修学校においても関係者評価の実施および公開が義務化されたことをふまえ、日本プリンティングアカデミーも学校関係者評価を実施・公開を行い、ご意見をいただき PDCA の実施を行い、さらなる印刷関連企業の成長支援のため、また人財育成のため、教育の質の向上に取り組んでいます。

1. 対象期間

2022 年 4 月 1 日 ～ 2023 年 3 月 31 日

○ 委員会開催

第 1 回 2022 年 6 月 14 日 (火) 13:30～16:30

第 2 回 2022 年 10 月 20 日 (木) 15:00～18:00

第 3 回 2023 年 3 月 16 日 (木) 14:00～17:00

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

吉田陽子 (株式会社ヨシダコーポレーション 代表取締役)

平塚音四郎 (スタジオ OT0 主宰 日本写真家協会会員 日本広告写真家協会会員)

大山信二 (株式会社シー・オー・エム 代表取締役)

丸山和之 (株式会社エイト 代表取締役社長)

補佐：中村 竜 (日本プリンティングアカデミー事務局代表)

(2) 評価基準

文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠。

(3) 評価方法

学校関係者評価委員会による学校の監査と学生アンケート、教職員、各部門担当者へのヒアリングを実施、関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価に取り纏め。

3. 評価の項目

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

(1) 次の4段階で点数評価しました。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(2) それぞれの評価項目のうち評価3以下のものについての状況と課題について報告いたします。

1. 教育理念・目標

No	設問	評価点
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④・3・2・1
2	専門分野における職業教育の特色は明確か	④・3・2・1
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4・③・2・1
4	学校の理念・目的・育成人材像・職業教育の特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4・③・2・1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4・③・2・1

【2022 年度の現状と今後の課題】

3. 社会の変化に合わせ、適切なカリキュラムを提供しているが、最新のニーズに更に適応したいと考えている。具体的には、IT 関連スキルやデジタルスキルの向上、そして実務経験を積み重ねる機会としてのインターンシップが特に重要である。将来のビジョンにおいて、これらの要素をより具体的に取り入れて、学生のニーズにより適切に対応できるようにする必要がある。
4. 学校の理念や目的などは、学校案内やウェブサイトに掲載され一部の動画コンテンツも追加されたが、まだまだ情報が不足していると言える。これらについて更なる充実を希望する。
5. 業界ニーズに合わせた新学科の設立を行いカリキュラムも方向づけられているが、学生たちの今後のキャリア形成に役立つのか改めて検証・確認することも必要であると考える希望する。

2. 学校運営

No	設問	評価点
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④・3・2・1
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④・3・2・1
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④・3・2・1
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	④・3・2・1
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④・3・2・1
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④・3・2・1
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4・③・2・1
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④・3・2・1

【2022 年度の現状と今後の課題】

7. 教育活動等に関する情報公開は Web サイトにより行われているが、より詳細な情報を掲載したほうがよい、大学などで公開されているシラバスの作成案については賛成であるが安易にシラバスを作成するのではなく、JPA の教育方針がカリキュラムで具現化され各科目が技術・マーケティング・デザイン・マネジメントとバランスよく構成されることを希望する。

3. 教育活動

No	設問	評価点
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④・3・2・1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④・3・2・1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④・3・2・1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④・3・2・1
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4・③・2・1
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4・③・2・1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	④・3・2・1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④・3・2・1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④・3・2・1
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④・3・2・1
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4・③・2・1
12	業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4・③・2・1

13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための取り組みが行われているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
14	教職員の指導力育成や能力開発など資質向上を目指した研修等が行われているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

【2022 年度の現状と今後の改善策】

5. 常にカリキュラム等の見直しは行われているが、出来るだけ広く各業界団体からのフィードバック情報を積極的に収集し、それをカリキュラムに反映させる必要がある。また専門家のヒアリングも積極的に行うことを希望する。
6. 実践的な職業教育が体系的に位置づけられ、産学連携によるインターンシップや実技・実習がほぼ適切に実行されているが、さらなる向上と発展を希望する。例えばデジタル技術の活用やデジタルスキルの強化、また学生の実践的なスキルと能力を客観的に評価する仕組みや、適切な施設や設備、指導教員の確保など様々なことが必要である、少しずつでも強化していくことを希望する。
11. 優秀な教員の確保は常に行っているが、DX・人工知能など最新技術に対応する教員の確保を希望する。具体的には、教員の定期的な研修プログラムを導入し、教員が最新の教育トレンドやベストプラクティスにアクセスできるようにしていただきたい。
12. 昨年同様ではあるが、小規模学校運営の現状にて難しいと思うが、各授業内容に合わせた実践に強いプロフェッショナルな講師の確保を希望する。
13. 関連分野における先端的な知識・技能の修得に関して、ほぼ適切に実行されているが、学生に実務経験を積ませるための業界スタンダードのツールや学生からのフィードバックを適切にカリキュラム改善に反映されることを希望する。

4. 学修成果

No	設問	評価点
1	就職率の向上が図られているか	④・3・2・1
2	資格取得率の向上が図られているか	4・③・2・1
3	退学率の低減が図られているか	④・3・2・1
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④・3・2・1
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④・3・2・1

【2022 年度の現状と今後の改善策】

2. 難易度の高い試験に対応するために、専門的なトレーニングや模擬試験を提供し、学生が試験に自信を持って臨むことができるようサポートしていただきたい。また、教材やカリキュラムの最適化を検討し、学習効果を向上させることを希望する。

5. 学生支援

No	設問	評価点
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④・3・2・1
2	学生相談に関する体制は整備されているか	④・3・2・1
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④・3・2・1
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4・③・2・1
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④・3・2・1
6	学生の生活環境への支援は行われているか	④・3・2・1
7	保護者と適切に連携しているか	④・3・2・1
8	卒業生への支援体制はあるか	④・3・2・1
9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4・③・2・1

【2022 年度の現状と今後の改善策】

4. 年に一度簡単な健康診断は行っているが、1人暮らしの学生などに向けて、生活習慣の大切さ、食事と栄養、運動、ストレス管理などに関する健康管理プログラムなど提供することを希望する。

9. 業界標準の教育設備の充実を業界・関連メーカー様協力のもとに行ってはいるが、設備の老朽化も見受けられる、定期的なメンテナンスや部品交換を行い引き続き教育環境の設備の充実を希望する。また、消耗品についても定期的に管理・整理整頓を行い常に理想的で綺麗な環境を維持することを希望する。

6. 教育環境

No	設問	評価点
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④・3・2・1
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4・③・2・1
3	防災に対する体制は整備されているか	4・③・2・1

【2022年度の現状と今後の改善策】

2. インターンシップ制度は組合にご協力いただきコロナ禍ではあるが十分体験学習が可能となった。しかし海外研修は等費用面の問題もあるが取り組んでもらいたい。また、今後はオンラインを活用して海外のセミナー研修を取り入れてよりグローバル化を意識した教育を希望する。
3. 防災訓練や設備等は整ってはいるが、定期的に防災を意識した訓練をしていただきたい、また簡易的な消火器・AEDの使い方だけでなく三角巾を活用した応急手当など、より実践的に指導することを強く希望する。

7. 学生受入れ募集

No	設問	評価点
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
3	学納金は妥当なものとなっているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

【2022 年度の現状と今後の改善策】

1. 学校案内の充実化を行い、一般募集をしているが世界情勢やコロナの影響を受けて学生数は減少している。今後は印刷業会や後援会のご協力をお願いし業界全体に告知・募集をすることを希望する。
2. 学校案内パンフレット等紙媒体は充実をしているが WEB サイトや SNS で教育の成果に関する授業風景の動画やカリキュラム紹介（シラバス）の説明、卒業後の OB 紹介などは不十分である WEB でのより多くの情報発信を希望する。

8. 財務

No	設問	評価点
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
3	財務について会計監査が適正に行われているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
4	財務情報公開の体制整備はできているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

【2022 年度の現状と今後の改善策】

- 1・2. 昨年同様であるが、ここ数年の学生数減少による収益減が財務基盤の不安要素である。人件費率の改善や経費節減に努めるとともに、学生数確保が最優先課題であり学生募集における計画を中心に実行することを希望する。また、定期的な進捗レビューや計画の実行状況についても報告していただきたい。

9 . 法令等の遵守

No	設問	評価点
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
4	自己評価結果を公開しているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

【2022 年度の現状と今後の改善策】

- 自己評価の実施と問題点の改善には常に取り組んでいるが、今後はより効果的な改善を実現するために、具体的な目標の設定とフィードバックに基づいた情報分析を行った上で、中長期の計画を策定することを希望する。

10 . 社会貢献・地域貢献

No	設問	評価点
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ・ 3 ・ ② ・ 1
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ・ 3 ・ ② ・ 1
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4 ・ 3 ・ ② ・ 1

【2022 年度の現状と今後の改善策】

1. 現在の社会貢献および地域貢献活動は、規模が小さく限定的なものである、一方で学校法人としての社会貢献の重要性と潜在的な可能性を常に意識し、その効果や実例に学ぶことを希望する。
2. 現在、学生のボランティア活動の奨励と支援が限定的であると認識する。今後は、学生が少人数でも実施できるボランティアや地域交流活動を選定し、より積極的に奨励し、支援していくことを希望する。
3. 一般の方々にも関心を引くために、小学生向けの見学イベントや異業種の研修などを積極的に実施する必要がある。しかし、これらの活動が魅力的で印象的に感じられるような資料作りや動画制作は欠かせない。資料や動画を通じて印刷の魅力や美しさを伝え、興味を持ってもらえるとよい。その他課題があることは理解するが少しずつでも対応していく姿勢を希望する。